



**5/12 札幌市民と交流
田植え体験ツアー**
JAそらち南青年部主催の田植え体験ツアーが、継立の井澤智明さんの水田で行われました。町と札幌市白石区は、ともに明治期に宮城県からの入植者がまちづくりに携わった縁から交流が続ぎ、同ツアーを開催。札幌市白石区の親子などを対象とし、田植え体験を通して、食育や米に対する関心を高めることを目的としています。31回目となった今年は親子連れなど約100人が参加。15アールの水田にゆめぴりかの苗を同青年部の指導を受けながら、ひと苗ずつ丁寧に植えていきました。



**5/16 羽化が待ち遠しい
オオムラサキ飼育に挑戦**

角田小学校と継立小学校の1、2年生が、ファアブルの森観察飼育舎を訪れ、人工飼育しているオオムラサキの幼虫を観察しました。ふるさと体験教育授業の一環で42人が参加。小さな幼虫の姿を見つけるたびに歓声をあげていました。見学後、両校生は幼虫3匹と餌となるエゾエノキの鉢植えを借り受け、NPO法人雨煙別学校の職員から説明を受けた後、飼育を開始。角田小1年の伊藤優希ちゃん「1匹でも多く羽化できるように水やりをしていきたい」と話していました。



**5/17 「農家の嫁」交流深める
農業女性塾入塾式**

若手女性農業者の意欲と関心を高め、地域農業の活性化を図ることなどを目的としたくりやま農業女性塾が始まりました。本年度の塾生は新たに加入された2人を含む12人。「農業や地域について学びを深めよう!」「塾内外とかかわり、繋がりを広げていこう!」などをテーマに、町内外の研修ツアーや食育講座などが予定されています。入塾式で、栗山町農業振興公社の高間嘉之理事長代理が「家族ぐるみで交流の輪を広げてほしい」とあいさつしました。



**5/19 「トドマツ」の成長を願って
コブ未来の森づくり植樹祭**

生活協同組合「コブさつぽろ」の社会貢献活動の一環として、桜山の町有地で今年で8回目となる植樹祭が行われました。同組合は、植樹から木の活用までを視野に入れた循環型の森林づくりの活動を目指そうと町と森林整備の協定を締結。町内外から参加した約80人は空知総合振興局森林室の職員から植樹の指導を受け、約20アールの町有地に400本のトドマツを植樹しました。参加した小野壮一朗くんは「楽しく植樹できた。元気に大きく育ってほしい」と話していました。



**4/26 町民のために安らぎのベンチ
町技能協会が寄贈**
栗山町技能協会が奉仕活動の一環として歩道ベンチ5基を町へ寄贈しました。高齢者や身体の不自由な方に利用してもらおうと、同協会が平成9年より町内のバス停などに設置。今回の寄贈で歩道ベンチは19基になりました。今年3月に同協会会員18人が栗山建設協会から提供された木材を使い、3日かけて製作。寄贈式はスポーツセンター前で行われ、山崎信治会長は「町民のためには思い協力させていただけました。多くの方に使っていたいただきたい」と話していました。



**4/27 「火の用心」呼びかける
幼年・女性防火クラブ**

4月20日から30日までの「春の火災予防運動」に合わせ、栗山めぐみこども園幼年消防クラブの園児23人が、介護老人保健施設ガーデンハウスくりやまを訪れ、火災予防を呼びかけました。法被を着て「火の用心」のぼりをさしたインパチェンスの鉢花とティッシュを入所者一人ひとりにプレゼント。また、ラッキー栗山店前では、栗山地区女性防火クラブが北雄ラッキー栗山店前とマックスバリユ栗山店前を訪れた方々に火の用心を呼びかけました。



**4/29 初日は約3500人が来場
栗山公園となかよし動物園**

栗山公園と園内のなかよし動物園がオープンしました。天候にも恵まれ、動物園の入り口前には町内外の親子連れなどの長い列ができ、来場者は、オープン記念に配られたお菓子を受け取ると、さっそく動物園に入場。動物たちとのふれあいを楽しんでいました。その後、クリレンジャーショーなどのイベントを開催。この日は約3500人が春の休日のひとときを満喫しました。訪れた林代恭史さんと三上藍ちゃんは「クリレンジャーショーがとても楽しかったです」と笑顔で話していました。



**4/30 火の元には十分気をつけて
女性消防団が高齢者宅を訪問**

春の火災予防運動に合わせ、栗山消防団の女性消防団員が、防火の呼び掛けと火の元の点検を行うため一般住宅へ立入検査を行いました。同団員5人は2班に分かれ消防署職員とともに高齢者宅8軒を訪問。防火設備の点検や防火指導、防火花などの配布による啓発活動を行い「火の元には十分に気をつけて」などと呼びかけました。中央1丁目の川崎栄美子さんは「きれいなお花をありがとうございます。近くに住む娘と連携をとりたいと思います」とお礼を述べていました。